

日本ブランド発信事業

2016年10月24日～10月28日

水戸岡鋭治

「日本ブランド発信事業」専門家
株式会社ドーンデザイン研究所 代表取締役

<香港担当者>在香港日本国総領事館 広報文化部 副領事 森下裕香

<ソウル担当者>駐大韓民国日本国大使館 公報文化院 二等書記官 豊泉 拓司, 総務担当 鄭 素媛

香港でも韓国でも、先生も学生もデザインの力がゆたかな経済と文化の源になると信じて勉強している姿に感動をおぼえました。「デザインは公共のために」との志を掲げて取材にも可能な限り正直に明快に対応したつもりです。日本ブランドの発信に利したかどうかわかりませんが、今回の縁を大切に情報交換を重ねながら日本ファンを増やしてゆけるようあと少しデザイン活動を続けたいと思います。

お世話になったスタッフの皆さん、関係各位に心から感謝いたします。

香港

24日 空港からホテルへ行き、すぐに香港理工大学へ移動。校舎はザハ・ハディド設計。講演相手は教授や学生中心。

はじめての香港で、出迎えてくれた総領事館の森下さんから詳しく丁寧に今日の香港事情を説明していただいた。香港の経済・社会・文化のみならず、「香港人である」ことにゆるぎない誇りをもつ香港人氣質についても教えを受け、間もなくはじまる講演への心構えが少しできたように思えた。会場の香港理工大学に集う方々はデザインを専攻する学生や教授陣がほとんどなので、私が英語で講演できれば相互理解もスムーズであったろうにといまさらながら悔やまれるが、通訳氏の努力に映像での説明も加えて、日本の鉄道とデザインについて少しずつ理解されていったと思う。内容は日本での講演と変わらず、デザインの難しさと楽しさを語り、その中で、多くの人々に平和で豊かな時間と空間を提供するには、なにも特別なものをつくるのではなく、最高の常識がちりばめられた「ひと・こと・もの」こそが感動を呼ぶ、という信条を述べたように記憶する。



香港理工大学 デザイン学院 10月24日17:00～18:00

Rennie Kan (Senior Marketing Manager)
Anita Law (Assistant Marketing Manager)
Philippe Casens (Assistant Professor)
Alex Ho (Lecturer)

香港

25日

昼食は日本総領事との会食。マンダリンオリエンタルホテルグループ地域開発ディレクターも同席し、日本と香港の関係性、これからの観光について意見交換。元イギリス軍弾薬倉庫跡に建つ施設を見学し、夕方から施設の会員と一般客向けに講演。



アジアソサイエティ 10月25日19:00~20:00 S. Alice Mong (Executive Director)

日本観光の現場に精通し、多くの人々を送り込んでくれている旅行代理店の方から、短い時間だったが、九州の観光や旅のしかたについての貴重なアドバイスをいただいた。それによれば、香港の旅行客は買い物ツアーではなく、日本の原風景・歴史・文化・伝統・身近な生活の



アジアソサイエティ(パネル展示)

講演だけでなく、パネルを1日展示し多くのお客様にご覧いただいた。取材もここで対応多。

知恵など、幅広く質の高い「ひと・こと・もの」と自然に出会える旅を求めていることを改めて知らされた。「観光立国とは何ぞや？」の自問に、ひとつの確かな答えをもたらしてくれた。アジアソサイエティでの講演は一般の方を対象としたもの。パネルを一日展示したことで、少しでも多くのお客様に日本の鉄道旅行の雰囲気を感じていただけたかと願う。

日本総領事との会食は美しい歴史的な邸宅を舞台に、総領事の見識高いお話をはじめ、数々の有意義な意見交換の機会となった。また、招待客のマンダリン・オリエンタルホテルグループ地域開発ディレクターよる日本観光や日本旅館につての正鵠を得た分析を伺い、かつ日本の質の高いサービスと空間デザインを生かして懐かしく新しい和のホテルをプロデュースしたいという意欲を聞かされて、まず私たち観光にかかわる日本人が率先して取り組んでゆかねばならない課題を示された思いだった。

ソウル

27日 パネル展示と講演を実施。現地学生、社会人、韓国在住日本人が参加。講演は鉄道専門の教授が対談役。



ddp (Seoul Design Foundation) 10月27日

Keun LEE (CEO)
Rhee Sangmook (International Relations Team Manager)
Hyowon LEE (International Relations Team)

設計はザハ・ハディド。施設を見学し、ソウルデザイン財団代表と意見交換。

ソウルで見たザハ・ハディド建築DDPは彼女の作品の中でも最高の出来栄えと感じた。いまさらだが、もし彼女の東京オリンピック会場案が実現していたら、世界に誇る素晴らしい建築遺産として観光の目玉になったことであろうと思わざるを得ない。美術館の(ソウルデザイン財団)キュレーターの方の案内・説明が実に見事で、物語を聞くようだった。最高の環境やステージができると、そこでいかにゆたかに人が育つてゆくのかを実感した。



日本文化院 10月27日13:30~15:00 李容相(Professor, Woosong University)

日本文化院では講演とパネルディスカッション。海外での講演に全く自信のない私としては、この会場でもパネル展示を許してくれたことで大いに救われた。

キョンヒ大学では、会場の教室に入ると夫伯教授のご厚意で夕食が用意されており、学生たちと和気あいあいと会話しながらのスタートとなった。予期せぬ歓迎と私以上に熱の入った通訳のおかげで、ストレートに聞く人の耳に入ってしまったという確かな手ごたえを感じた。1時間半の講演が終わり質疑応答を始めると、最初は9名の手が上がり、一人一人にできるだけ丁寧に答えてゆくと、次々に質問者が続く。夫伯教授は止めることなく「手を挙げた生徒にはさいごまで答えてやってください。時間はたっぷりありますから」とのご指示。日本でも大学・社会人を問わず若い人たちに講演することは何度もあったが、このように熱気あふれた時間を共有できた経験は一度もない。



キョンヒ大学 10月27日18:30
夫伯(キョンヒ大学 教授)



韓国の学生を相手に講演。軽食を取りながら雑談も。

26日・28日は移動日

【参考リンク】外務省「日本ブランド発信事業」ウェブサイト